

科目名	発達心理学（演習）		担当教員	大村 あかね		
			担当形態	単独		
テキスト	「保育の心理学Ⅱ」萌文書林	単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	後期
<p><b>講義概要</b></p> <p><b>■到達目標</b> 子どもと共に生活し、その育ちを支え、かかわりながら自らも育っていく者となるために、以下のことを目標にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは遊びや生活の中で、生きるために必要な様々な経験をしていることを説明することが出来る。</li> <li>・子どもの発達理解に基づく援助という観点から、保育行為を捉えて記述することが出来る。</li> </ul> <p><b>■授業の概要</b> 保育の現場で、子どもが身近な環境や人とかかわって体験することが、その子どもの発達とどう結びついているのか、またそれを援助するとはどういうことなのかを学びます。 授業では、実習等で出会った子どもの生活や遊び、保育者の援助や環境構成といったものを結びつけながら、子どもの発達を踏まえた保育実践について学びます。また、話し合い等のグループワークを通して、考察を深めていきます。 出来る限り自分の体験に引きつけて、実際にその場面に会ったらどうするだろうか、という想像力を働かせながら参加して下さい。</p> <p><b>■授業計画</b></p> <p>第1回 子どもにとっての生活と遊び 第2回 子どもの遊びと学び 第3回 子どもの生活と学び 第4回 身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 第5回 環境としての保育者と子どもの発達 第6回 個と集団①～個の育ちと集団の育ち～ 第7回 個と集団②～「一人ひとり」と「みんなで」を大切にする保育とは～ 第8回 子ども理解の視点の一つとしての発達の把握 第9回 一人ひとりの発達に応じた保育 第10回 発達の連続性と就学への支援 第11回 子どもの発達と保育実践①～保育者の資質と役割～ 第12回 子どもの発達と保育実践②～環境を通して～ 第13回 現代社会における子どもの発達と保育の課題 第14回 これまでのまとめ 期末試験 第15回 期末試験解説 全体のふりかえり</p> <p><b>■準備学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の該当部分を読み、実習や、これまで他の科目で学んできたことと関連づけながら理解してくること。</li> <li>・授業で課された自己学習、グループワークを行うこと。</li> <li>・授業終了後は、リアクションペーパーでその日の授業で感じたこと、学べたことをふりかえって整理し、期限までに提出すること。</li> </ul> <p><b>■評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での取り組み（グループワークへの参加、レポート、発言内容） — 20%</li> <li>・毎回のリアクションペーパー — 30%</li> <li>・期末試験 — 50%</li> </ul>						
参考文献	授業中に適宜示します。		特記事項	【課題等へのフィードバック方法】 リアクションペーパー、レポートやグループワークの記録用紙などは、必要に応じてコメントを付け、必ず学生に返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼	教職に関する科目		
			保	保育の対象の理解に関する科目		